

# ま

人はみな、  
生かされて  
生きてゆく

発行 名張保護司会

〒518-0718  
名張市丸之内9(総白福祉センターふれあい内)  
☎63-7575 FAX 64-3349

## 更生保護ネットワーク 名張保護司会便り

No.35

第70回社会を明るくする運動 作文コンテスト

### 全国表彰 県内12年ぶりの快挙

「社会を明るくする運動」は、地域や人の繋がりの中で罪を犯した人たちの立ち直りを支え、理解を深めることによって犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする、法務省主催の全国的な運動です。このような運動を皆さんに知っていただくために、毎年、全国の小中学生に呼びかけた作文のコンクールを行っています。

今回、市内の中学校から293名の応募があり、名張中学校の永野由華さんが法務大臣賞(最優秀賞)に次ぐ、全日本中学校長会会長賞(優秀賞)を受賞しました。永野さんは

- ◎全日本中学校長会会長賞 (優秀賞)
- ◎三重県推進委員会委員長 (県知事) 賞
- ◎名張市推進委員会会長 (市長) 賞
- ☆ 永野 由華さん (名張中学校 2年)
- ◎三重県教育委員会教育長賞
- ◎名張保護司会会長賞
- ☆ 生田 初さん (桔梗が丘中学校 3年)
- ◎名張更生保護女性会会長賞
- ☆ 大野 陽菜さん (桔梗が丘中学校 2年)
- ◎名張市 BBS 会会長賞
- ☆ 中林 莉緒さん (北中学校 1年)
- ◎名張市推進委員会審査委員長賞
- ☆ 平井 茉奈加さん (南中学校 1年)
- ◎名張市推進委員会審査委員長賞
- ☆ 足立 航太郎さん (赤目中学校 1年)

### 全日本中学校長会会長賞(優秀賞) 「愛情を知った大人になる」 永野 由華さん(名張中学校2年)

※原文のまま掲載しています。

家族団らんの晩ご飯中、何気にお父さんが話しかけてきました。「そういえばこの前、居酒屋で昔の同級生に会ったが、その変わりようがすごくて、びっくりしたよ!」と言ってきました。

よく聞くと、その人は中学、高校と問題児にされていたようで、少し警察にお世話になったこともあったみたいです。

その人は子供の頃から家庭環境がすごく悪く、それが近所周りにもよく知られるぐらい有名だったようです。しかし、今はまったくそんなことはなく普通の社会人で、三人の子供さんがいる立派なお父さんになっていたとの事です。

その人が更生出来た一つのきっかけは、伯父が優しく、自分の両親よりはるかに愛情をもって接してくれたようなのです。問題を起した時も伯父が学校まで来て一緒に謝ってくれたり、自分に対して本気で叱ってくれた、出来なかつた勉強も教えてくれた、将来の事で親身になって相談に乗ってくれたと感謝の気持ちを今でも忘れないと言っていたようです。

問題を抱える人は、本人だけの問題だけではなく周りの環境にも多く原因があり、また同じような人達も自然に集まってしまうようで、さらに悪い事に発展してしまいます。その人達から脱却できたのもその伯父のおかげだったようです。

て注意するようになった、さらに身近にいる不良と言われる学生に対して、本人しかわからない悩みがあるはず、それを親身になって聞いてあげられる大人になりたいと話していたようです。

お父さんはそれを聞いてかなり感心していました。わたしは、もしその人に伯父の存在が無かつたら、今はどのような大人になっていたのか、愛情をもって接してくれる人の存在がとても大事であるとそれを聞いて思うようになりました。

これらの事を考えていると、昔の事を思い出しました。私がまだ小学生の頃、電車に乗っていた時、近くに座っていたおじさんの姿を見て驚きました。その人はヒゲを生やし、真っ黒なサングラスで金色のハンチング帽子、全身がキラキラした服装で先のとっぴな派手な靴を履いており、さらに手首と指にも高価な貴金属を沢山付けて、腕を組んで眠っていました。小学生の私でもすぐに怖い人と直感で分かりました。

その時、そのおじさんの近くにいた三歳ぐらいの男の子が、わがままを言うて急に大声で泣き出しました。電車の人混みによる窮屈さと不慣れた状態で、電車を降りたがっているように見えた。しかし、その前にはあの怖い人が眠っているのです。私はドキドキしました。その人は泣き声でむくくと起きて、男の子を少しの間見ていました。子供はお構いなしに泣きじゃくって、お母さんがもう少しだからがまんしなさいと叱れば叱るほど泣き声が大きくなりました。周りの人に謝りながら困っていました。子供の泣き声が嫌で不愉快な感じ

を感じ、逆に中身が子供の大人に対して注意するようになった、さらに身近にいる不良と言われる学生に対して、本人しかわからない悩みがあるはず、それを親身になって聞いてあげられる大人になりたいと話していたようです。お父さんはそれを聞いてかなり感心していました。わたしは、もしその人に伯父の存在が無かつたら、今はどのような大人になっていたのか、愛情をもって接してくれる人の存在がとても大事であるとそれを聞いて思うようになりました。これらの事を考えていると、昔の事を思い出しました。私がまだ小学生の頃、電車に乗っていた時、近くに座っていたおじさんの姿を見て驚きました。その人はヒゲを生やし、真っ黒なサングラスで金色のハンチング帽子、全身がキラキラした服装で先のとっぴな派手な靴を履いており、さらに手首と指にも高価な貴金属を沢山付けて、腕を組んで眠っていました。小学生の私でもすぐに怖い人と直感で分かりました。その時、そのおじさんの近くにいた三歳ぐらいの男の子が、わがままを言うて急に大声で泣き出しました。電車の人混みによる窮屈さと不慣れた状態で、電車を降りたがっているように見えた。しかし、その前にはあの怖い人が眠っているのです。私はドキドキしました。その人は泣き声でむくくと起きて、男の子を少しの間見ていました。子供はお構いなしに泣きじゃくって、お母さんがもう少しだからがまんしなさいと叱れば叱るほど泣き声が大きくなりました。周りの人に謝りながら困っていました。子供の泣き声が嫌で不愉快な感じ



全日本中学校長会会長賞(優秀賞)を受賞した永野 由華さん

で場所を変える人もいました。するとその怖いおじさんが、その子供の頭を急に優しく撫でて、「ボク、こんな電車の中で、長い間よく今まで我慢できたね、えらいね、男の子だからもう少し我慢できるかな?」とサングラス越しにでもわかるぐらいニコツとした顔で言いました。その子はおじさんの声でピタッと泣き止み、お母さんにしがみ付きました。お母さんがお礼を言うのと、そのおじさんは、「お母さん、子供には愛情いっぱい育ててやってな、そうしないとオレみたいな大人になって後悔するで、わっはっは」とさらに笑顔で話しかけていました。そのおじさんに昔何があったかわかりません。でも後悔していることは間違いないのです。でも格好は別として、今は反省をして立派に生きている大人に見えました。私は、それを感じて怖いおじさんから、優しいおじさんに急に見方が変わりました。その時はおじさんの言った意味がよく分からなかったのですが、今思うとおじさんも色々な人からの愛情が欲しかったのだらうなと思います。そしておじさんのように、誰にでも優しい言葉をかけられる世の中が大切だと思いました。

私は普段、何気なくもらっている家族や周りの人からの愛情を改めて感じ、感謝の気持ちがわいてきました。

私は普段、何気なくもらっている家族や周りの人からの愛情を改めて感じ、感謝の気持ちがわいてきました。

更生保護「愛の資金」は市内の各地区を通じて募金を全世帯に呼びかけ、令和2年度も皆さんのご理解とご協力により大きな成果を上げることができました。ご協力いただきました皆さんに厚くお礼申し上げます。「愛の資金」は次の事業に活用させていただきます。ただし、本年度コロナ禍により「社会を明るくする運動」事業の一環としての中学生卓球大会、街頭啓発、その他諸活動が中止および縮小となり、繰越金が発生しました。

総額 1,753,863円

(令和3年1月末日現在)

社会を明るくする運動事業	594,361円	県更生保護事業助成	250,000円
保護司会活動費用事業	237,000円	大会積立金	300,000円
更生保護女性会活動事業	150,000円	繰越金	172,502円
名張BBS会活動事業	50,000円		

